

## 「家族介護システムの構築に関する研究」の説明および同意書

研究指導者：鹿児島国際大学大学院 福祉社会学研究科  
教授 田中 安平  
客員教授 田畑 洋一  
鹿児島国際大学大学院 福祉社会学研究科  
博士後期課程 大野 さおり

本研究を次のような目的で実施いたします。研究の目的や方法等をご理解いただき、本研究にご協力いただける場合は、同意書にご署名をお願いいたします。また、本研究は、ご協力いただいた方の自由な意思によるものであり、調査後の皆様の生活において、不利益を被ることはありません。本研究にご協力いただけましたら幸いです。

### 1. 研究の目的

介護保険制度は、「介護の社会化」を実現する政策として2000年4月に登場しましたが、17年余が経過した今日、同制度は急速な少子高齢化の進行や要介護高齢者の増加により、制度発足時の「介護の社会化」という理念が揺らぎつつあります。

「介護の社会化」の理念の一つに、要援助者がサービスを必要とする状況になったとき、家族介護に依存することなく必要な社会サービスを利用できることがあります。それは、家族介護の負担の軽減のみならず、介護される要介護高齢者にとってもよりよい生活を送ってもらうことを可能にすることを意味しています。介護を社会化するということは、家族から介護を切り離すことではなく、介護サービスがスムーズに利用できるシステムづくりと支援体制を構築することに他なりません。

そこで、この調査は「介護の社会化」を実現するために、家族介護の位置づけと諸課題を家族介護者の立場から明らかにしようとするものです。

### 2. 研究方法

この研究では、質問紙の項目にそって、60分程度のインタビューをさせていただきます。インタビュー内容はICレコーダーで録音し、逐語録を作成して分析いたします。インタビューは1回を予定しておりますが、分析をするなかで改めてお伺いしたいことが出てくる場合があります。その場合、追加インタビューをお願いすることがあります。

### 3. 対象者

- ①居宅で家族介護支援を行い、看取りを経験した家族、現に介護支援している家族
- ②要介護者が施設に入所となった家族

### 4. 個人情報、研究データの取り扱いについて

この研究で、お話しいただいた内容、逐語録を研究目的以外に用いることはなく、守秘をお約束いたします。また、個人情報を保護するため、逐語録のお名前は研究データから取り除き、符号に置き換えて管理いたします。ICレコーダーの録音データは、逐語録を作成しましたら廃棄いたします。

匿名化をおこない、個人が一切特定されない形にした研究データは、大野の責任下にて研究のため5年間、鍵のかかるロッカー等で厳重に保管し、研究責任者が一元管理いたします。5年経過後には同意書を含む、全てのデータを廃棄いたします。

### 「家族介護システムの構築に関する研究」の同意書

私は、「家族介護システムの構築に関する研究」について以上の事項について説明を受けました。研究の目的、方法等について理解し、研究に協力いたします。

平成 年 月 日

協力者（署名） \_\_\_\_\_ 印

**家族介護システムの構築に関する研究**  
**－ 家族介護者と介護支援専門員からみた居宅介護に関する研究 －**

要介護者性別・年齢	男 女 ( ) 歳	要介護状態区分	
家族介護者の続柄	1 妻 夫 息子 娘 嫁 その他 ( )	2 妻 夫 息子 娘 嫁 その他 ( )	
介護形態	1.同居 2.遠距離介護 3.その他 ( )	1.同居 2.遠距離介護 3.その他 ( )	

(提示用)

1. 家族（居宅）で介護支援をおこなうと決めた要因はなんですか？
2. 介護支援をおこなうと決めた時の要介護者の心身の状態・状況はどうでしたか？
3. これまでに、どのような介護サービスを利用されましたか（複数回答可）。  
 1 ショートステイ 2 通所介護 3通所リハビリテーション 4 訪問介護  
 5 訪問看護 6 小規模多機能型居宅介護 7 福祉機器 8 住宅改修  
 9 居宅療養管理指導 10 その他 ( )
4. 家族介護支援をおこなうときに必要な介護の知識・情報はどのように収集しましたか。
5. 家族介護支援をおこなうときに気を付けようと思ったことは、どのようなことですか。
6. 家族介護で困難を感じたことがありましたら教えてください。
7. 専門職（居宅介護支援専門員）との関わりで、  
 ①良かったと感じたことがありましたらお話し下さい。  
 ②足りないと感じたことがありましたらお話し下さい。  
 ③必要だと考えたことがありましたらお話し下さい。
8. 居宅で家族介護支援をおこなうときに、住まわれている地域の環境は介護に適していましたか。
9. 居宅で家族を、  
 ①看取られた現在の気持ちをお聞かせください。  
 ②今後、看取られる準備を考えていますか。

ご協力ありがとうございました。  
 鹿児島国際大学大学院 福祉社会学研究科 博士後期課程 大野さおり

令和元年 月 日

様

久留米大学 文学部 社会福祉学科  
教授 鬼崎 信好  
助教 大野 さおり

## 在宅介護を促進するための要因に関するアンケート調査について (ご協力のお願い)

拝啓 盛夏の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は、アンケート調査を実施することに致しました。本調査は、要介護者が可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるシステム（仕組み）を確立するために、何が必要となるかなどを把握することを目的としております。

つきましては、ご多忙の折、誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. 調査対象者：**施設長(1名)、事務長(1名)、事業所管理者(1名)、栄養士(1名)**  
**生活相談員(1～3名)、介護支援専門員(1～3名)、介護主任(1名)**  
**介護職員(15名)、看護師(1～3名) 等**
2. 回収締切：**令和元年9月30日(月)**
3. 回収方法：**事業所に回収箱を設置させていただきます**
4. 配布部数：**30部(予備2部) ※調査票**

※調査に関して御不明な点がございましたら、下記の連絡先迄お問合せ下さい。

久留米大学 文学部 社会福祉学科  
助教 大野 さおり

【連絡先】

〒839-8502 久留米市御井町1635

TEL : 0942-43-4411 (内線5070)

E-mail: ohno\_saori@kurume-u.ac.jp